

眞野美穂 (m.mano.hmt@osaka-u.ac.jp)

1. はじめに

叙述類型論において名詞述語文(「主題-解説」構造を持つもの)は、典型的には属性叙述(カテゴリー属性)を行うとされるが、事象叙述を行うことも可能である。

- | | | |
|---------------|------------|------------|
| (1)a. 日本は島国だ。 | b. 猫は哺乳類だ。 | (属性叙述) |
| (2)a. ひどい頭痛だ。 | (静的事象叙述) | b. 電車が到着だ。 |
| | | (事象叙述) |

事象叙述を行う名詞述語文の特徴については、個別の現象として分析されることはあっても、包括的にそれらの共通点を探る研究は不足しており、課題が残されている。

また、述語名詞を、益岡 (2021)は以下のように分けて分析しているが、本稿では単一名詞からなる名詞述語文を対象を絞り、見ていくことにする。

- | | |
|--------------------------------|---------|
| (3) a. あの人は <u>作家</u> だ。 | (単一名詞) |
| b. あの人は <u>流行作家</u> だ。 | (複合名詞) |
| c. あの人は <u>海外でもよく知られた作家</u> だ。 | (述語名詞句) |

(益岡 2021: 43 ※述語名詞の種類は、発表者による加筆)

本発表の目的:

名詞述語文が事象叙述を行う場合の特徴を検討し、事象叙述を行う名詞述語文に見られる共通性を探ること

本発表の構成

- 第2節 名詞述語文の叙述の類型
- 第3節 モノ名詞述語文による事象叙述の特徴
- 第4節 名詞述語の種類と叙述の類型
- 第5節 まとめと今後の課題

2. 名詞述語文の叙述の類型

2.1. 名詞述語文と叙述類型論

三上 (1953): 名詞文…品定め文

益岡 (2008, 2021): 名詞述語文…本来的な属性を表す属性叙述が基本
カテゴリー属性(「主題-解説」構造)

(まとめ)モノ名詞述語を取る名詞述語文は、話者の知覚を伴うことで時間軸上に位置づけられ、事象叙述を行う。そして、基本的に発話場面における物事や事象の出現や発生の発見を表す。

cf. 久保田 (2018)は、出来事名詞の名詞述語文がなぜ出来事の発生を表すのかについて、「火事！」のような未分化な文が発生の意味を表すことと同様に説明することができるとしている。

4. 述語名詞の種類と叙述の種類

4.1. 述語名詞の種類による差

本節では、述語名詞の種類がどのようにその叙述と関わるかを見る。まず 3 節で見た事象叙述を行うモノ名詞述語文の持つ特徴について、状態名詞(サマ名詞)・出来事名詞(コト名詞)を述語とする事象叙述文でも同様かを確認する。

(特徴 1)名詞述語の指示性

→状態名詞・出来事名詞の場合:非指示的

(17) a. うわっ、高熱だ！

b. あっ、到着だ！

(18) a. 健が高熱だ。

b. 特急列車が到着だ。 (= (11))

(特徴 2)発話場面における知覚の必要性

→状態名詞・出来事名詞の場合:現象文(13)とその他の事象叙述の場合で異なる。

(6) a. (今)健は{病気/留守/無言}だ。

b. 今日は休みだ。/外は雨だ。

(19) a. 昨日健{が/は}高熱だった。

b. 特急列車{が/は}明日到着だ。

→ 状態や出来事を表す名詞述語の場合、名詞自体の語彙概念構造に含まれる出来事(event/ state)の活性化により、発話場面に限定されることなく、事象叙述が可能であると考えられる。主題文の構造をとっても、事象叙述が可能なくとも、これを支持している。

一方、従来出来事を表さないモノ名詞では、話者の知覚を通じた時空間(発話場面)への位置づけにより、事象叙述が可能となると考えられる。

a. あー、雨(あめ)だ。

b. *あー、雨天だ。

c. *あー、レインだ。

しかし、(ii)のように漢語や外来語でも事象叙述が可能なくともあることから、語種が要因とは考えづらい。

(ii) a. あっ、暴風だ。

b. あっ、ホワイトアウトだ。

※ただし、出来事名詞であっても、過去時制や従属節内に生じた場合、非文となることがあることが、久保田 (2018)によって指摘されている。

(20) a. *田中さんが到着だった。

b. *田中さんが到着だか分かる？

(久保田 2018: 134)

4.2. 静的事象叙述を行う名詞述語文と形容詞述語文

最後に、ここまで見てきた名詞述語文の行う事象叙述の特徴から、静的事象叙述に焦点を当て、同様の叙述を行う形容詞述語文との差異について触れておく。対象とするのは、身体状態を表す静的事象叙述文である。

(21) a. 私は頭痛だ。(名詞述語文)

b. 私は頭が痛い。(形容詞述語文)

・ 人称制限の有無

名詞述語文(人称制限なし)² ⇔ 形容詞述語文(人称制限あり)

(22) a. {私/健}は頭痛だ。

(名詞述語)

b. {私/*健}は頭が痛い。

(形容詞述語)

cf. 所有文

(23) a. {私/健}-{が/に}今日頭痛がある(こと)

b. 私{が/*に}今日頭が痛い(こと)

「主題—解説」構造を取る名詞述語文は、それが表すものが身体状態や心理状態であっても、話者の判断を介する。そのため、名詞述語文の主語の意味役割は、事象叙述を行う場合も経験者ではなく、その状態にある対象である。そのため、人称制限が観察されない。

5. まとめと今後の課題

名詞述語文による事象叙述はモノ名詞においては限定的であるが、話者の知覚を通じた時空間(発話場面)への位置づけにより可能となることを主張した。このような事象叙述は、出来事名詞や状態名詞にも可能であるが、モノ名詞と異なり、それ以外の事象叙述も可能であり、異なる振る舞いを見せることを示した。

これらの名詞述語文の事象叙述の特徴は、名詞が行う叙述の特徴(出来事や属性を1つのまとまりとして完結したものとして叙述する性質)と関わると考えられる³。今後、名詞の持つ語彙概念構造からどのよう

² 複合名詞や派生名詞ではあるが、一人称主語が許されない例も存在する。

(iii) {*私/健}は{意識不明/大喜び/大忙し}だ。

³ Langacker (1991)は、名詞化を時間の流れを越え、行為全体をひとまとめにして表すものとしている。

にこれらの現象が説明できるかも含め、考えていきたい。

今後の課題

- 1) 名詞述語の種類による叙述の差異と、語彙概念構造の関わりについて
- 2) 工藤 (2012)の指摘する「<知的体験性>の前面化」による静的事象叙述との相違について
(24) 花子が妙に大人しい。 (工藤 2012: 166)
- 3) 通言語的な名詞述語文による事象叙述の特徴について
cf. 金 (2021): 日韓語の一語名詞文や動作性名詞述語に見られる差異

(参考文献)

- 尾上圭介 (2001)『文法と意味 I』くろしお出版.
- 影山太郎(編)(2012)『属性叙述の世界』くろしお出版.
- 金智賢 (2021)『コピュラとコピュラ文の日韓対照研究』ひつじ書房.
- 工藤真由美 (1995)『アスペクト・テンス体系とテキスト: 現代日本語の時間の表現』ひつじ書房.
- 工藤真由美 (2012)「時間限定性という観点が提起するもの」『属性叙述の世界』くろしお出版.
- 久保田一充 (2018)「出来事の発生を表す名詞述語文」『愛知淑徳大学論集』43, 129-148.
- 久保田一充 (2019)「到達構文としての名詞文—動的事態指向の修飾表現と静的表現との結合事例—」
『日本語文法』19(2), 66-82.
- 高橋太郎 (1984)「名詞述語文における主語と述語の意味的な関係」『日本語学』3-12. 明治書院.
- 谷守正寛 (2018)「動的事態を表す名詞で締める名詞文とその主題」『言語と文化』22, 149-171.
- 田村澄香 (2008)『現代日本語における名詞文の時間表現』溪水社.
- 中村真衣佳 (2020)「現代日本語における名詞述語の形態と意味」『国語国文研究』155, 48-62.
- 新屋映子 (2014)『日本語の名詞指向性の研究』ひつじ書房.
- 仁田義雄 (1991)『日本語のモダリティーと人称』ひつじ書房.
- 益岡隆志(編)(2008)『叙述類型論』くろしお出版.
- 益岡隆志 (2021)『日本語文論要綱』くろしお出版.
- 三尾砂 (1948)『国語法文章論』三省堂.
- Langacker, R. (1991) *Concept, image, and symbol*. Mouton de Gruyter.